



TORINISHI
LIBRARY

鳥取西高校 図書館ジャーナル

鳥取西高等学校図書館

NO. 1
2025.4



開館時間: 月～金 8:30～16:30

私たちが図書館を担当します

なかもと つばさ
中本 翼 (司書)

小学校1年生の時、お昼の校内放送で「3年生以上の人は明日の朝読書のために図書館で本を借りましょう」とアナウンスされていて、うわあ早く3年生になりたい!私も本が借りたい!と思ったのが、図書館にまつわる最初の記憶です。

みなさんも初めて図書館に行った時、きっととてもワクワクしたんじゃないかなと思います。その時の気持ちを思い出して、今年もたくさん図書館にきてください。笑顔でお待ちしています。

たなか
田中 かなで

(企画部図書係主任・司書教諭・国語科)

図書館は文化の森です。読書、学習、探究の不確実な過程に、さまざまなノイズの多さで寄り添います。圧倒的に壮大で、全容を知ることができない情報の真ただ中で、みなさんは存分に探索をし、成長・変化することができます。

正解を探しにではなく、見解を揺さぶり、刺激を受け、分析の材料を増やし、筋道のヒントをつかみ、他者と交流・対話するために。あるいは静かにたたずむために。ぜひ図書館においてください。

やまさき まさはる
山崎 雅晴 (地歴公民科)

私が最近好きな曲に次のようなフレーズがあります。「色々な姿や形に惑わされるけど…私は何になろうか どんな色がいいかな 探しに行くよ 内なる花を」まさに皆さんの年代は外から見える、また見られることを意識することが多いかもしれません。それも自然なことかもしれませんが、自分を見つめ、外を意識することなく、自分の本当に好きなものは何か、図書館で探すのもいいのではないのでしょうか。

是非、図書館に探しに来てください、皆さんの色、内なる花を。

多読賞に挑戦しよう!



読むことで、何かが変わる。

積み重ねたページは、確かな力になります。

知識、想像力、語彙、表現力——読書を通して身につく力はたくさんあります。

自分のペースで読み進めて、多読賞をめざしてみませんか?

西高図書館では、毎年4月～2月の貸出冊数上位を多読賞として表彰しています。

昨年度の最多読冊数は154冊でした。今年度、あなたの挑戦をお待ちしています。

展示案内

【本屋大賞】

4月9日に2025年の「本屋大賞」が発表されました。本屋大賞とは、全国の書店員さんが1年間で一番すすめたい本を選ぶ文学賞で、西高図書館でも毎年大人気です。

今年の大賞は、『カフネ』阿部暁子（講談社）
2位以降に圧倒的大差をつけての受賞です。タイトルの「カフネ」は、主人公が手伝う家事代行サービス社の社名ですが、ブラジル・ポルトガル語で“cafuné”「愛する人の髪にそっと指をとすしぐさ 頭をなでて眠りにつかせるおだやかな動作のこと」だそうです。素敵な言葉ですね。おいしいご飯にも注目の心あたまる小説です！

今年のノミネート作品や過去の大賞・ノミネート作もあわせて、館内展示中です。今年のノミネート作品を読みたい場合は、予約がおすすめです。



【新書大賞】

中央公論新社が主催する「新書大賞」は、1年間に刊行されたすべての新書から、その年の最高の一冊を選ぶ賞です。

今年の大賞は、『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』三宅香帆（集英社新書）です。

小論文・新書コーナーの隣で、過去5年分の受賞作品を展示しています。意外なテーマの新書もあって興味深いですよ。ぜひ手に取ってごらんください。



おしらせ

英字新聞の寄贈を いただいています

■『Asahi Weekly』

（週刊／英字新聞）

→2025年3月～1年間

鳥取市の税理士事法人ゆう様より、寄贈いただいています。英語力向上のためぜひ活用しましょう。



雑誌のお試し購入をしています

探究活動や進路の役に立ちそうな以下3誌をお試しで購入しています。評判が良ければ、定期購読を検討します。

ぜひ感想を聞かせてください。

■『螢雪時代』（月刊／進路情報）

■『季刊地域』（季刊／地域・農業）

■『うかたま』（季刊／食・暮らし）



新着図書ピックアップ



『僕には鳥の言葉がわかる』

鈴木 俊貴／著（小学館）

世界で初めて動物が言葉を話すことを突き止め、動物言語学を開拓した著者の科学エッセイ。巻末のシジュウカラの鳴き声もぜひ聴いてほしい！今期イチおすすめの本。



『好きな食べ物がみつからない』

古賀及子／著（ポプラ社）

「あなたの好きな食べ物はなんですか？」と聞かれたら何と答えるべきか…その答えを模索する軽快な自分観察エッセイ。ちなみに司書は「魅」と答えます。



『小さなことばたちの辞書』

ピップ・ウィリアムズ／著（小学館）

舞台は20世紀初頭のイギリス。オックスフォード英語大事典編纂者の娘の視点から「ことば」の美しさに触れる辞書文学。

